

東京大学総合研究博物館 マクロ先端研究発信グループ共同活動

「マクロ先端科学にふれるハンズオン・ギャラリー」

Hands On

マクロ先端科学とは何でしょう？
学術標本を間近にふれて下さい。



テーマ:「生き物と人との関わり」

ギャラリー1/耳石から読み解く魚の生活履歴(解説員:黒木真理)

ギャラリー2/昆虫からさぐる東京の環境変化(解説員:矢後勝也)

ギャラリー3/古代アンデスのワタとアルパカ(解説員:鶴見英成)

ギャラリー4/古代メソポタミアのムギとウシ(解説員:門脇誠二)

テーマに関する解説・標本体験コーナーを設けます。
解説員と一緒に、標本の間近な観察や簡単な実験をととして「マクロ先端科学」にふれてください。

平成22年10月3日(日)

第1回 10:00/第2回 12:30/第3回 14:30

会場/東京大学総合研究博物館本館 講義室
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

主催/東京大学総合研究博物館本館
協力/科学技術振興機構(JST)平成22年度地域の科学舎推進事業 地域活動支援

- 募集対象と人数
中学生以上。保護者同伴の小学生も歓迎いたします。各回60名まで。
- 応募(先着順、締切9月20日) ※応募要項は裏面にあります。

東京大学総合研究博物館

The University Museum, The University of Tokyo <http://www.um.u-tokyo.ac.jp>

「マクロ先端科学にふれるハンズオン・ギャラリー」

「マクロ先端科学」とは何でしょうか？それは、私たち人間に身近で知覚的・体感的に理解しやすい事柄を調べる科学研究です。例えば、私たちの生活はたくさんの生き物に支えられています。ふだん何気なく見たり口にしたり、身につけている生き物には、私たちの周りで起こっている環境変化の兆しがあらわれていたり、あるいは遠く離れた古代社会とのつながりがあります。

古代や現在の「生き物と人との関わり」に関する研究について、身近な動物や植物、昆虫の標本を手近に観察していただきながら、「マクロ先端科学」の一端にふれていただきたいと思います。

会場では、以下4つのテーマに関する解説・体験ユニットを設けます。それぞれの場所で、解説員の説明を聞きながら、参加者の方々は標本の顕微鏡観察や簡単な実験を行うことができます。

Hands On



テーマ：「生き物と人との関わり」

ギャラリー1：耳石から読み解く魚の生活履歴（解説員：黒木真理）

標本：わたしたちに身近な魚とその耳石

解説：魚の耳石のしくみ、耳石から読み解く魚の生活史と資源の推定、耳石の観察

ギャラリー2：昆虫からさぐる東京の環境変化（解説員：矢後勝也）

標本：東京都市部で増殖したチョウ類や甲虫類の標本

解説：分布拡大の変遷とその主要因、DNA解析を伴う起源の推定、生態・行動や生活史など

ギャラリー3：古代アンデスのワタとアルパカ（解説員：鶴見英成）

標本：遺跡から出土した織物や糸紡ぎの道具

解説：木綿とラクダ科動物の獣毛による織物、木綿製の網による漁、ラクダ科動物による物資輸送

ギャラリー4：古代メソポタミアのムギとウシ（解説員：門脇誠二）

標本：遺跡から出土したムギ粒・植物珪酸体・ウシの骨、ムギの収穫・加工具

解説：ムギの栽培とウシの家畜化の起源について、古代のムギの収穫と加工の仕方

●応募（先着順、締切9月20日）

下記の応募先へ、電子メールあるいはお電話にて必要事項をご連絡ください。

※必要事項 ①参加希望時間、②参加希望者の氏名・年齢・性別、③住所と電話番号

※先着順につき、参加時間のご希望に添えない場合もございます。

●応募および問い合わせ先

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学総合研究博物館 「ハンズオン・ギャラリー」企画担当

メールアドレス：handson@um.u-tokyo.ac.jp(担当：門脇誠二)

tel：03-5841-2817(担当：矢後勝也)

アクセス／都営地下鉄大江戸線「本郷三丁目」駅より徒歩3分

東京メトロ丸の内線「本郷三丁目」駅より徒歩6分

東京大学総合研究博物館

The University Museum, The University of Tokyo <http://www.um.u-tokyo.ac.jp>

